

5. 体育施設

【体育館・屋内運動場】

(1) 概要

体育館・屋内運動場(※)は、市民の体位向上を図り、スポーツ及びレクリエーションを普及すること、またスポーツを軸としたまちづくりを推進することを目的とした活動の拠点として設置された施設です。

これらは37施設あり、延床面積は約3.8万㎡となっています。このうち13施設は、合併により旧町村から引き継いだ施設です。

体育館には、体育施設に分類されている施設のほかに、公民館や勤労青少年ホーム等に併設されている施設が12館あります。また、学校体育施設の中には、学校教育に支障のない範囲で、貸し出している体育館もあります。

なお、広域施設である大規模な体育館は、「大規模運動施設・その他体育施設」に記載しています。

※ 屋内運動場は屋根付きの運動場で、ゲートボール場、テニスコート等に使用されています。



信州新町体育館

第5章 施設分類別の状況

5. 体育施設

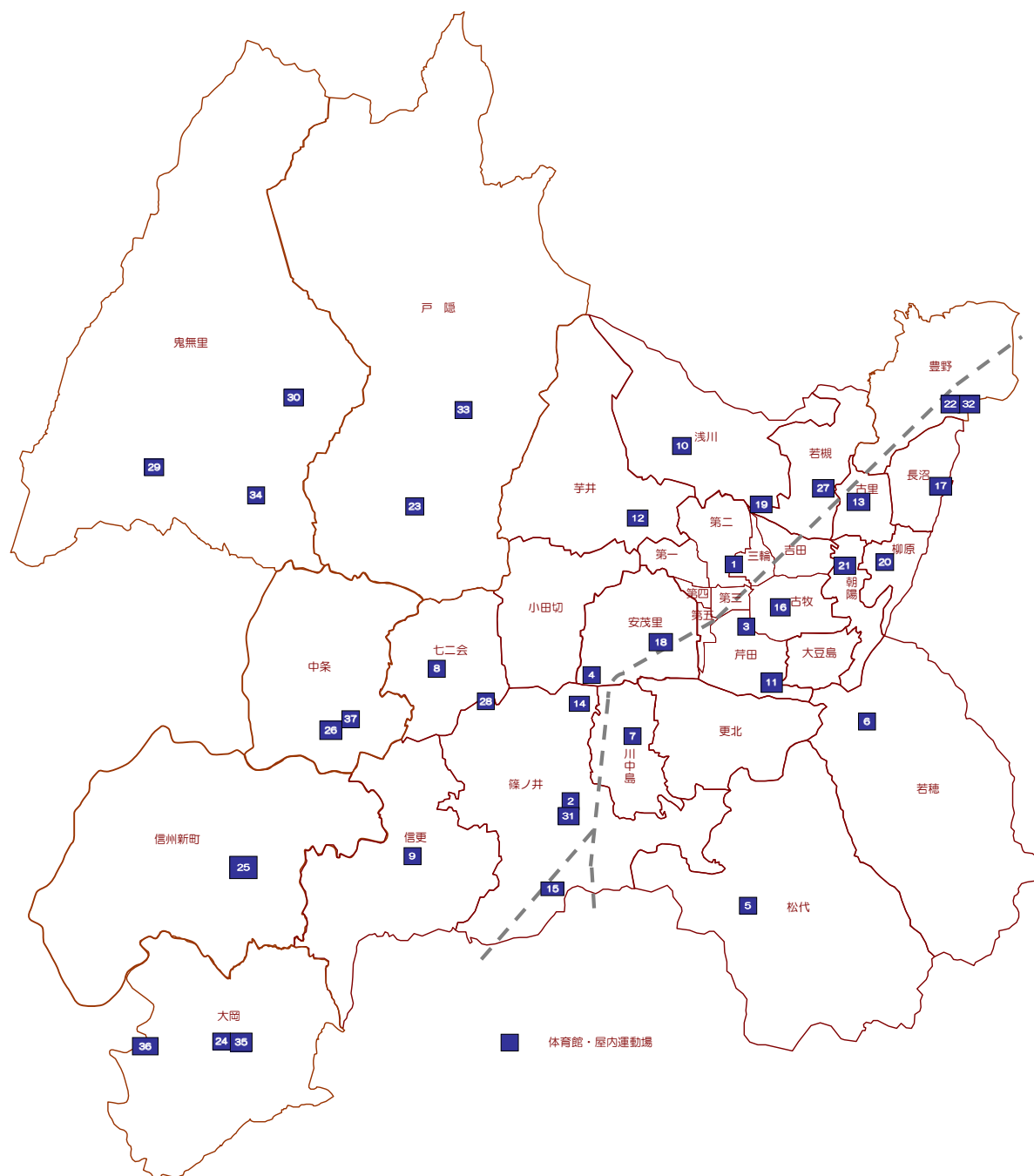
体育館・屋内運動場一覧

	施設名称	所在地区	単複	運営	建築年	建物延床面積(m ²)	階層	主たる構造	利用者数(人)
1	三輪体育館	三輪	単独	直営	1979年3月	924	1	S造	29,926
2	篠ノ井体育館	篠ノ井	複合	指定	1980年3月	916	1	S造	16,523
3	芹田体育館	芹田	単独	直営	1981年3月	552	1	S造	25,027
4	安茂里体育館	安茂里	単独	直営	1982年3月	872	1	S造	22,889
5	松代体育館	松代	複合	指定	1988年3月	809	1	S造	19,459
6	若穂体育館	若穂	単独	直営	1983年1月	810	1	S造	27,465
7	川中島体育館	川中島	単独	直営	1983年3月	809	1	S造	35,627
8	七二会体育館	七二会	単独	直営	1984年2月	501	1	S造	12,648
9	信更体育館	信更	単独	直営	1984年9月	700	1	S造	9,021
10	北郷体育館	浅川	単独	直営	1985年2月	364	1	S造	969
11	川合新田体育館	芹田	単独	直営	1985年2月	500	1	S造	29,724
12	芋井体育館	芋井	単独	直営	1987年3月	561	1	S造	5,589
13	古里体育館	古里	単独	直営	1988年3月	832	1	S造	34,953
14	小松原体育館	篠ノ井	単独	直営	1989年3月	500	1	S造	12,259
15	塩崎体育館	篠ノ井	単独	直営	1990年3月	830	1	S造	20,266
16	古牧体育館	古牧	単独	直営	1991年3月	837	1	S造	28,479
17	長沼体育館	長沼	単独	直営	1992年3月	875	1	S造	17,852
18	裾花体育館	安茂里	単独	直営	1993年3月	887	1	S造	36,459
19	浅川体育館	浅川	単独	直営	1996年3月	886	1	S造	22,997
20	柳原体育館	柳原	単独	直営	1997年3月	940	1	S造	23,649
21	朝陽体育館	朝陽	単独	直営	1999年1月	898	1	S造	21,821
22	豊野体育館	豊野	単独	直営	1977年12月	2,574	1	SRC造	43,965
23	戸隠体育館	戸隠	単独	直営	1981年5月	1,898	1	S造	4,456
24	大岡体育館	大岡	単独	直営	1987年3月	1,244	1	その他	17,417
25	信州新町体育館	信州新町	複合	直営	2003年9月	6,128	2	RC造	36,312
26	中条体育館	中条	単独	直営	1986年7月	1,889	2	SRC造	11,528
27	昭和の森公園フィットネスセンター	若槻	単独	直営	1988年9月	1,546	1	W造	34,550
28	篠ノ井村山健康スポーツセンター	篠ノ井	単独	直営	1998年6月	494	1	W造	18,699
29	両京健康スポーツセンター	鬼無里	単独	直営	1983年6月	599	1	S造	545
30	上里健康スポーツセンター	鬼無里	単独	直営	1984年8月	598	1	S造	620
31	茶臼山屋内運動場	篠ノ井	単独	指定	1988年3月	787	1	S造	7,883
32	豊野屋内運動場	豊野	単独	直営	1993年3月	991	1	W造	9,721
33	戸隠屋内運動場	戸隠	単独	直営	1994年3月	990	1	W造	38,808
34	鬼無里屋内運動場	鬼無里	単独	直営	1995年3月	640	2	S造	4,171
35	大岡屋内運動場	大岡	単独	直営	1985年3月	280	1	S造	3,450
36	下大岡屋内運動場	大岡	単独	直営	1998年3月	550	1	その他	476
37	中条屋内運動場	中条	単独	直営	1996年3月	743	1	W造	8,730
	合計					37,754			694,933

第5章 施設分類別の状況

5. 体育施設

体育館・屋内運動場の配置状況



※ 図表の番号は、体育館・屋内運動場一覧の番号と対応しています。

(2) 建物の状況

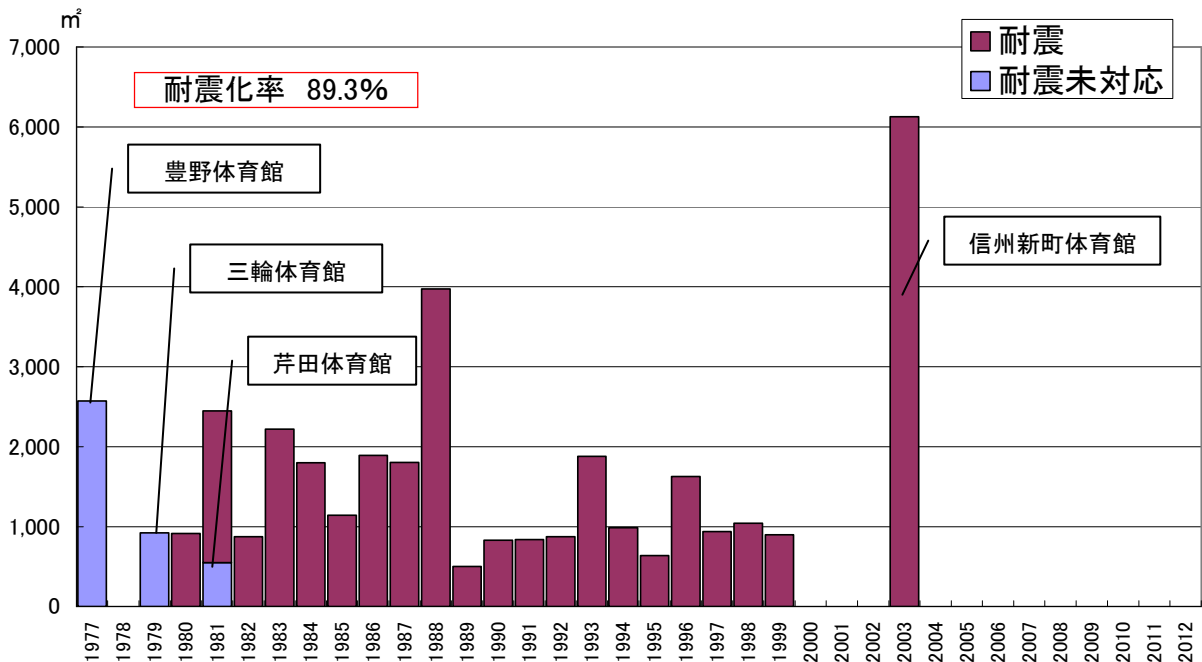
体育館・屋内運動場の延床面積は 37,754 m²です。

建設年別の延床面積のグラフを見ると、豊野体育館、三輪体育館、篠ノ井体育館、芹田体育館、戸隠体育館、安茂里体育館が築 30 年以上経過しており、延床面積では 7,736 m²で、体育館・屋内運動場全体の 20.5%となっています。

また、豊野体育館、三輪体育館、芹田体育館は、耐震未対応となっています。

体育館は、学校と同様、地震などの災害時には避難所として、地域の防災拠点の役割を担った施設であるため、耐震未対応の施設については、早急な対策が望まれます。

体育館・屋内運動場の建設年別延床面積



豊野体育館

第5章 施設分類別の状況

5. 体育施設

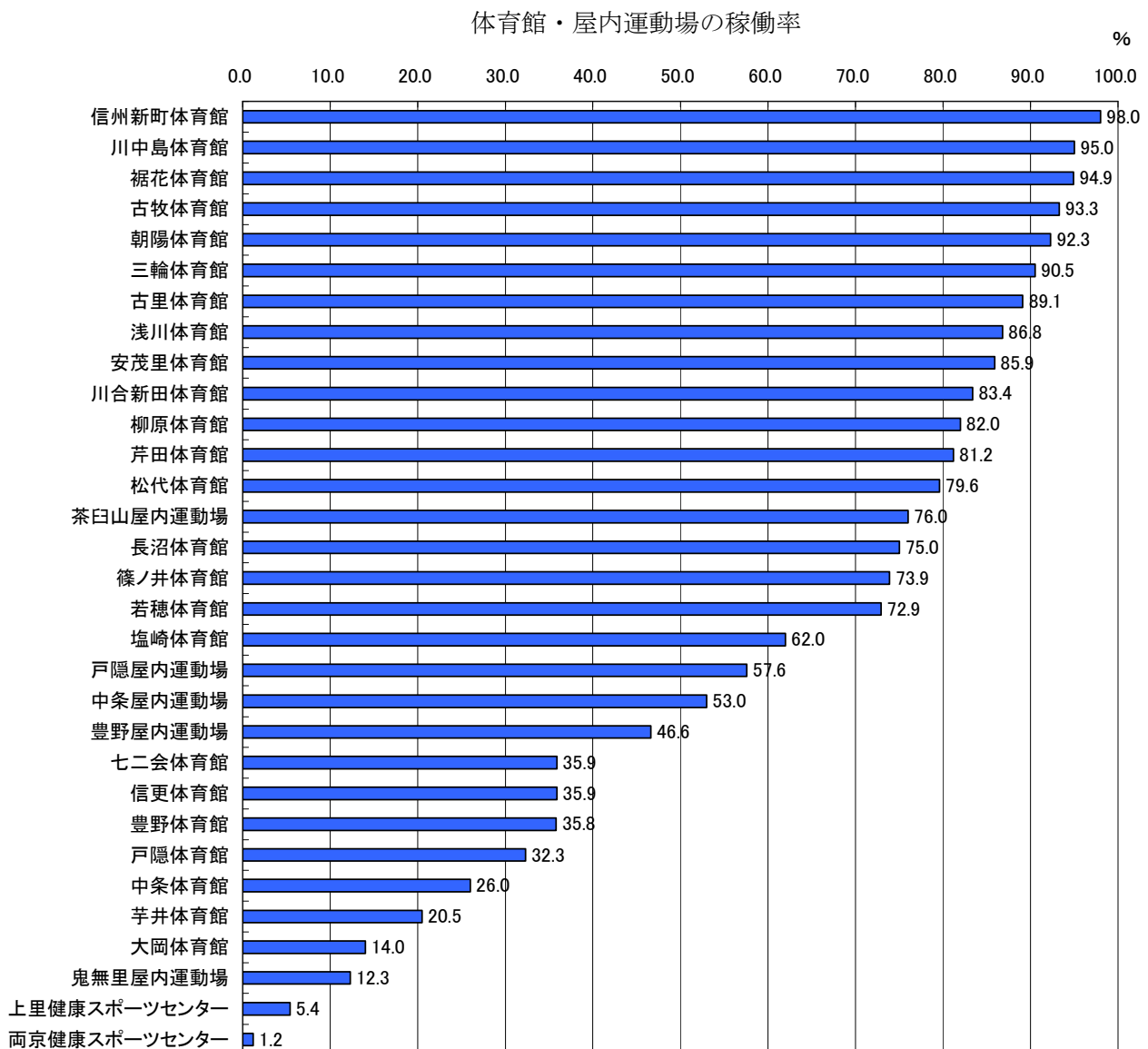
(3) 施設の利用状況

体育館・屋内運動場の平成24年度の利用者数は、年間約70万人です。

最も利用者数の多い施設は、豊野体育館の43,965人で、最も少ない施設は、下大岡屋内運動場の476人となっています。

体育館・屋内運動場で、稼働率が確認できる31館を見ると、平均稼働率は54.6%となっています。平均稼働率を上回る施設は19館で、この中には、90%を超える施設もあります。公民館、勤労青少年ホーム等に併設されている体育館と同様に、体育館の稼働率は非常に高く、予約が困難な施設もあります。

※ 稼働率 = 1年間に利用された件数 / 1年間に利用できる最大件数 (床面数 × コマ数 (午前・午後などの時間帯区分) × 年間開館日数)



(4) コストの状況

① 概要

平成 24 年度の体育館・屋内運動場の光熱水費や建物管理委託料などの施設維持管理費は約 6,400 万円で、事業運営費は約 360 万円となっています。

また、建物の減価償却費を含めたトータルコストは約 2 億円となっています。

なお、体育館・屋内運動場を市民が使用する場合は、無料となっています。

体育館・屋内運動場のコスト

(金額単位：千円)

I 現金収支を伴うもの		施設分類名	体育館・ 屋内運動場
		施設数	37
【コストの部】		延床面積(m ²)	37,754
施設維持管理費	修繕費		3,418
	工事請負費		2,364
	光熱水費		24,527
	建物管理委託料		12,510
	人件費(概算)		15,623
	その他の経費		6,038
	施設維持管理費 計		64,479
事業運営費	人件費(概算)		584
	業務委託料		1,954
	その他物件費等		1,083
	事業運営費 計		3,621
現金収支を伴うコスト計 ①			68,100
【収益の部】			
利用料金等	市		3,646
	指定管理者		127
収益計 ②			3,773
II 現金収支を伴わないもの			
【コストの部】			
減価償却費 ③			128,888
トータルコスト(①+③) ④			196,988
収支差額(④-②)			193,215

第5章 施設分類別の状況

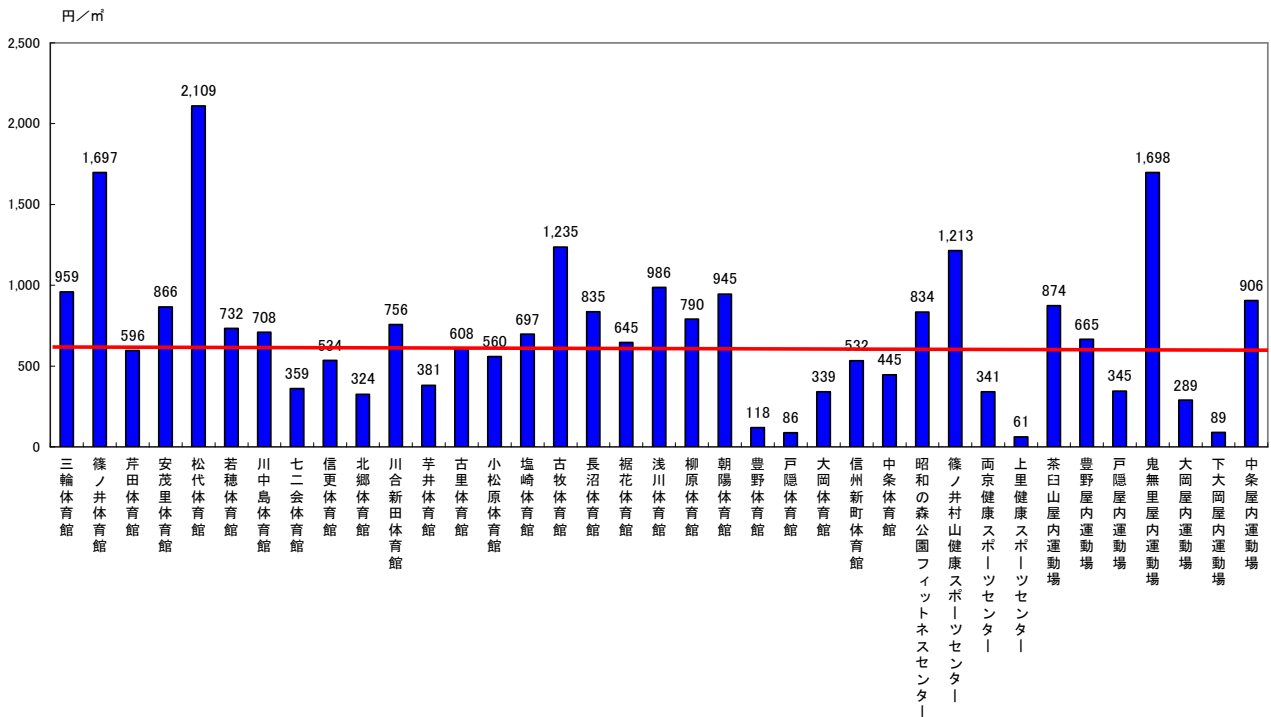
5. 体育施設

② 光熱水費の状況

施設維持管理費のうち、延床面積1㎡当たりの年間光熱水費の平均は 650 円/㎡となっています。

平均額を大きく超える施設については、今後、その要因を調査する必要があります。

延床面積1㎡当たりの年間光熱水費



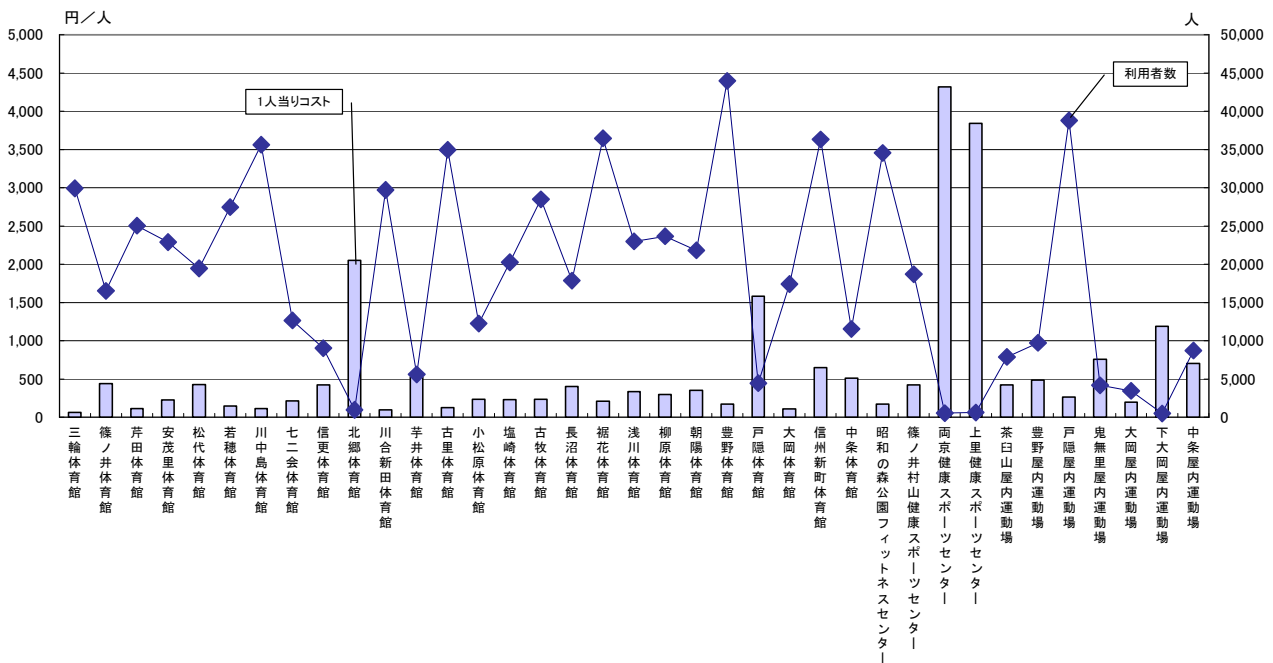
松代体育館

③ 利用者1人当たりのコスト

平成24年度の体育館・屋内運動場の利用者数は約70万人で、利用者1人当たりのコストの平均は約280円/人となっており、施設分類ごとに見ても、1人当たりの平均コストが低い施設となっています。

利用者1人当たりのコストが最も低い施設は、三輪体育館の65円/人です。反対に、最も高い施設は、両京健康スポーツセンターの4,319円/人と、平均値を大きく上回っています。

体育館・屋内運動場の利用者1人当たりの年間トータルコスト



両京健康スポーツセンター

第5章 施設分類別の状況

5. 体育施設

(5) まとめ

体育館・屋内運動場は、スポーツ施設としての役割のほかに、災害時の避難所としても、地区の重要な施設として位置づけられています。建物の約2割が既に築30年以上経過しているため、その老朽化対策が課題となります。

体育館・屋内運動場の平均稼働率は54.6%と高く、市民の健康意識が高く、スポーツ活動が盛んであることが分かります。

加えて、施設の維持管理にかかるコストも低いため、利用者1人当たりのコストも約280円と抑えられています。

体育館・屋内運動場の受益者負担の考えもありますが、施設の有料化に伴うコストの上昇や、学校体育施設の無料開放による施設利用の実態も考慮した上で、検討する必要があります。

高齢化社会に向けて、健康志向が高まり、体育施設の需要も増えると考えられることから、利用者の安全を優先し、計画的な修繕、改修、施設の更新が必要となります。



昭和の森公園フィットネスセンター

【大規模運動施設・その他体育施設】

(1) 概要

体育施設の中には、市民のスポーツ・レクリエーションの活動の拠点となり、心身の健康保持増進とみどり豊かな憩いの場の創出を図るために設置された大規模運動施設として、長野運動公園総合運動場と南長野運動公園総合運動場の2施設があります。各施設には、野球場、体育館、テニスコート、プールなどが配置されています。

この他に、真島総合スポーツアリーナ(ホワイトリング)、アジアでも唯一の国際公認のそり競技施設のボブスレー・リュージュパーク(スパイラル)があります。

これらの施設の中には、平成10年(1998年)に開催された第18回オリンピック冬季競技大会の競技会場となったアクアウイング(アイスホッケーB)、ホワイトリング(フィギュア、ショートトラック)及びスパイラル(ボブスレー・リュージュ)の3施設、並びに開閉会式場となったオリンピックスタジアムがあり、スポーツ振興を目的とした施設として、市民に一般利用されています。

これらの施設の建物の延床面積は、約7万㎡(※)となっています。

※ 面積は建物ののみとし、プール、テニスコート、運動場などの面積は除いています。

※ 改修中の南長野運動公園総合球技場の面積は除いています。

長野運動公園総合運動場施設一覧

施設名称	所在地区名	単複	運営	建築年	建物延床面積(㎡)	階層	主たる構造	利用者数(人)
1 総合体育館	吉田	複合	指定	1978年8月	8,662	3	RC造	148,364
2 テニスコート				1977年7月	208	1	S造	57,916
3 陸上競技場				1976年4月	2,745	2	RC造	125,952
4 弓道場				1980年1月	914	1	S造	18,623
5 運動広場				1976年3月	—	—	—	5,603
6 総合市民プール(アクアウイング)				1997年9月	13,545	3	RC造	113,512
7 マレットゴルフ場				2005年11月	—	—	—	—
合計					26,073			469,970

※ この他に県営球場もありますが、長野県所有施設であるため、除いています。

第5章 施設分類別の状況

5. 体育施設

南長野運動公園総合運動場施設一覧

施設名称		所在地区	単複	運営	建築年	建物延床面積(m ²)	階層	主たる構造	利用者数(人)
1	長野オリンピックスタジアム	篠ノ井	複合	指定	1996年11月	10,632	3	RC造	98,542
2	体育館・プール				1996年3月	7,907	2	RC造	192,042
3	テニスコート				2001年3月	792	1	RC造	67,576
4	総合球技場				2003年3月	—	1	RC造	58,631
5	相撲場				2003年3月	—	—	—	5,510
6	ゲートボールコート				2001年3月	—	—	—	5,135
合計						19,331			427,436

※ 長野オリンピックスタジアムの建物延床面積は、内野スタンドの面積です。

真島総合スポーツアリーナ（ホワイトリング）施設一覧

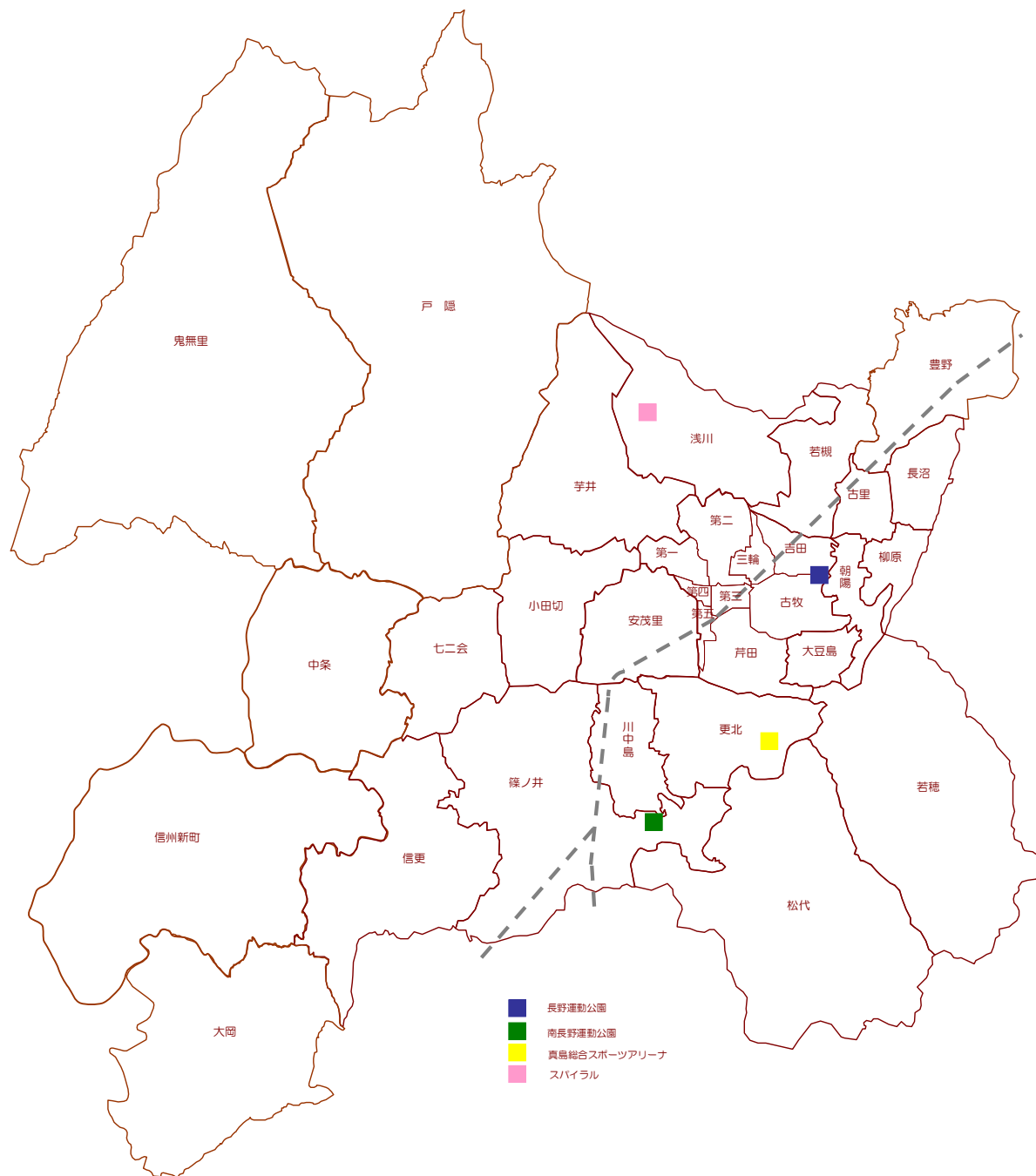
施設名称		所在地区	単複	運営	建築年	建物延床面積(m ²)	階層	主たる構造	利用者数(人)
1	メインアリーナ	更北	複合	指定	1996年3月	16,058	3	RC造	131,807
2	サブアリーナ				1996年3月	3,447	2	RC造	39,373
3	テニスコート				1996年3月	—	—	—	787
合計						19,504			171,967

ボブスレー・リュージュパーク（スパイラル）施設一覧

施設名称		所在地区	単複	運営	建築年	建物延床面積(m ²)	階層	主たる構造	利用状況(人)
1	ボブスレー・リュージュパーク	浅川	単独	直営	1996年3月	4,020	3	RC造	5,008

※ 建物延床面積は、管理棟やスタートハウスの面積で、滑走コース(1.76km)は除いています。

大規模運動施設・その他体育施設の配置状況



(2) 建物の状況

大規模運動施設・その他体育施設の延床面積は 69,044 m²です。

建設年別の延床面積を見ると、長野運動公園総合運動場は、総合市民プールのアクアウイングを除いたすべての施設が築 30 年以上経過していますが、耐震化率は 89.5%となっています。

南長野運動公園総合運動場、ホワイトリング、スパイラルは、オリンピック施設を活用し、オリンピック終了後に整備された体育施設であるため、建物はすべて築 30 年未満で、耐震性も確保されています。

しかしながら、オリンピック関連施設は、平成 10 年(1998 年)2 月の大会開催の1~2年前に集中して建設され、現在、築 16~17 年が経過しています。施設の中には、建物の劣化や機械設備の性能の低下などが生じている施設もあり、その対応には、多額の経費が必要となっています。

これらの施設も、今から 13~14 年後には、一斉に築 30 年を迎えることとなり、更なる老朽化対策が課題となります。



総合市民プール (アクアウイング)

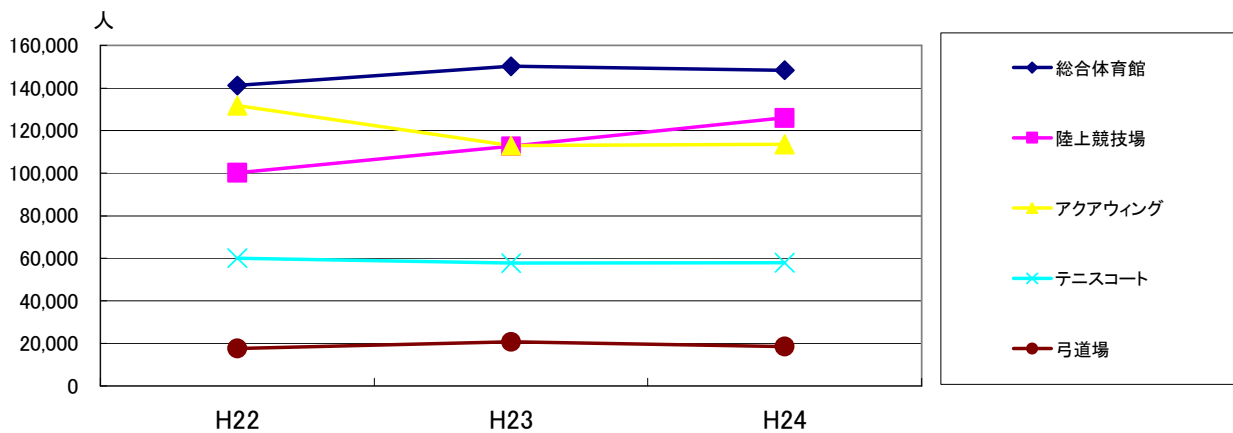
(3) 施設の利用状況

大規模運動施設・その他体育施設の平成24年度の年間利用者数は約107万人です。

長野運動公園総合運動場の年間利用者数は、約47万人です。利用者が最も多い施設は総合体育館で、約14.8万人となっています。いずれの施設も、平成22年度から平成24年度の利用者数に大きな変動はありません。

これらの施設は全て年間を通して営業しています(月曜日、年末年始休館)。屋外施設も全天候型の設備を備えていることから、天候による影響は受けにくくなっています。

長野運動公園総合運動場の利用者数の推移

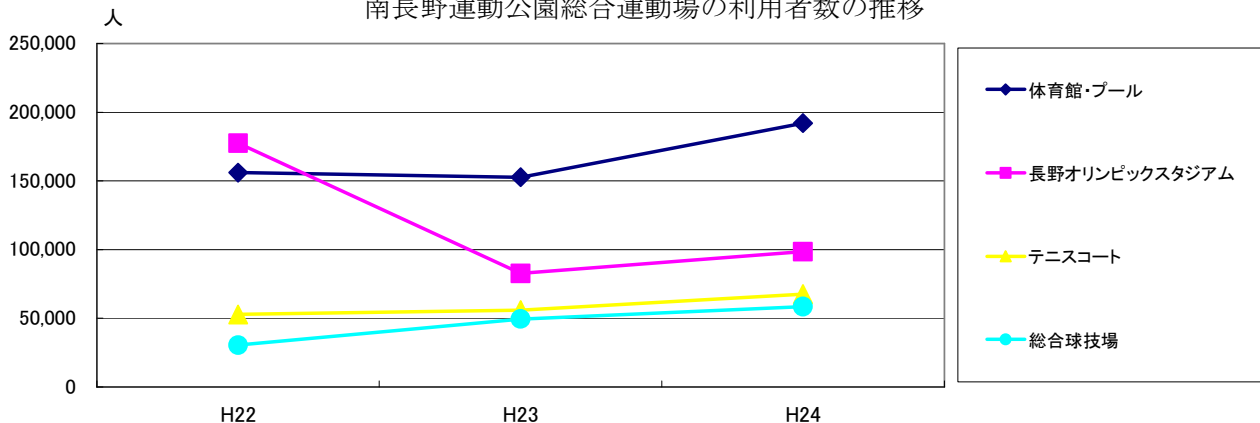


南長野運動公園総合運動場の年間利用者数は、約42.7万人です。利用者が最も多い施設は体育館・プールで、約19.2万人となっています。体育館・プール、テニスコート、総合球技場の3施設の利用状況は、いずれも微増傾向にあります。長野オリンピックスタジアムは、プロ野球の開催回数に大きく左右される傾向にあります。

これらの施設は全て年間を通して営業しています(火曜日、年末年始休館)。屋外施設のうち、テニスコートは全天候型の設備を備えていることから、天候による影響は受けにくくなっています。

なお、総合球技場は現在改修中で、平成27年3月に新たにオープンする予定です。

南長野運動公園総合運動場の利用者数の推移



第5章 施設分類別の状況

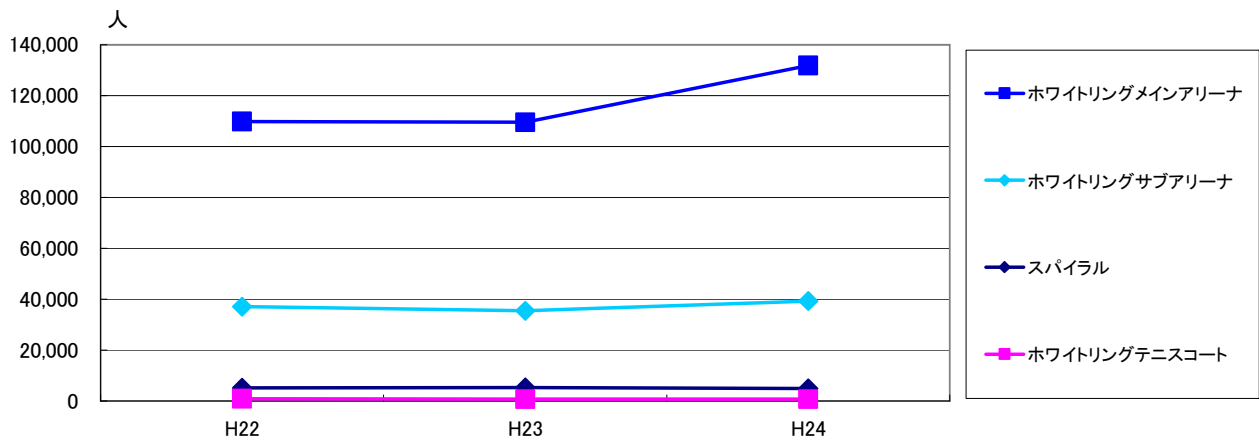
5. 体育施設

その他体育施設のうち、ホワイトリングの年間利用者数は約 17.2 万人です。利用者が最も多い施設はメインアリーナで、約 13.2 万人となっています。サブアリーナとテニスコートに大きな変動はありませんが、メインアリーナの利用者は、バレーボールワールドカップなどの大規模な大会が開催される年は、利用者が増加する傾向にあります。

これらの施設は全て年間を通して営業しています(第2・4月曜、年末年始休館)。屋外施設も全天候型の設備を備えていることから、天候による影響は受けにくくなっています。

スパイラルは、年間を通して営業しております(月曜日、年末年始休館)が、氷上滑走可能期間は、11月下旬から2月上旬で、年間の利用者数は0.5万人です。

ホワイトリング・スパイラルの利用者数の推移



真島総合スポーツアリーナ (ホワイトリング)

(4) コストの状況

① 概要

平成 24 年度の大規模体育施設・その他体育施設の光熱水費や建物管理委託料などの施設維持管理費は約 7.0 億円、事業運営費は約 2.2 億円となっています。

また、建物の減価償却費を含めたトータルコストは約 18.4 億円となっています。

大規模運動施設・その他体育施設のコスト

(金額単位：千円)

I 現金収支を伴うもの		施設分類名	長野 運動公園	南長野 運動公園	ホワイトリング	スパイラル
【コストの部】		延床面積(m ²)	26,073	19,331	19,504	4,020
施設維持管理費	修繕費		8,034	2,771	962	2,275
	工事請負費		8,435	4,589	0	865
	光熱水費		115,062	677,42	21,033	47,845
	建物管理委託料		128,554	2,459	42,591	101,753
	人件費(概算)		0	0	7,230	12,313
	その他の経費		26,277	79,375	3,234	19,873
	施設維持管理費 計			286,362	156,936	75,050
事業運営費	人件費(概算)		76,109	76,451	20,879	0
	業務委託料		0	0	0	0
	その他物件費等		20,193	22,252	4,575	0
	事業運営費 計			96,302	98,703	25,454
現金収支を伴うコスト計 ①			382,664	255,639	100,504	184,924
【収益の部】						
利用料金等	市		9,947	8,115	110	11,154
	指定管理者		66,128	94,672	22,779	0
収益計 ②			76,075	102,787	22,889	11,154
II 現金収支を伴わないもの						
【コストの部】						
減価償却費 ③			217,514	304,276	219,126	170,571
トータルコスト(①+③) ④			600,178	559,915	319,630	355,495
収支差額(④-②)			524,104	457,128	296,741	344,341

※ スパイラルには、国からナショナル・トレーニングセンター委託料として、平成 24 年度約 9,000 万円の委託金が支払われています。

第5章 施設分類別の状況

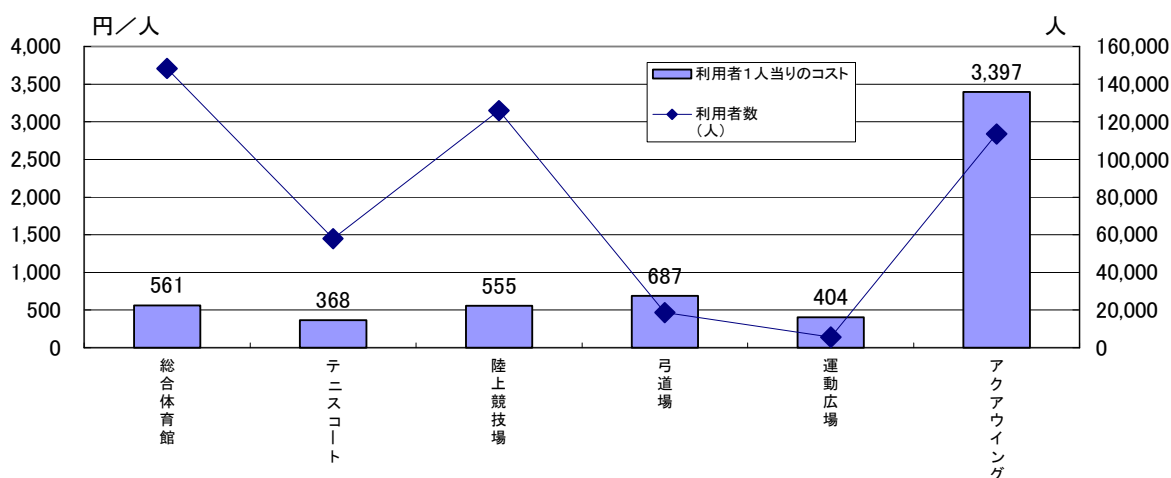
5. 体育施設

② 利用者1人当たりのコスト

平成 24 年度の大規模運動施設・その他体育施設の利用者数は約 107 万人で、利用者1人当たりのコストの平均は 1,685 円/人となっています。

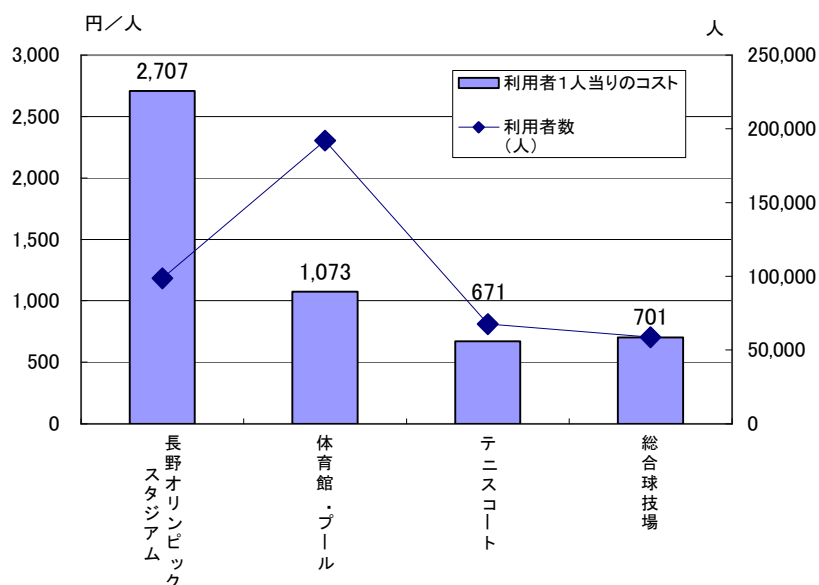
長野運動公園総合運動場の利用者1人当たりのコストは、1,224 円/人となっています。このうち、コストの高い施設は、アクアウイングの 3,397 円/人となっていますが、このほかの施設は 1,000 円/人未満となっています。

長野運動公園総合運動場の利用者1人当たりの年間トータルコスト



南長野運動公園総合運動場の利用者1人当たりのコストは、1,310 円/人となっています。このうち、コストの高い施設は、長野オリンピックスタジアムの 2,707 円/人となっています。

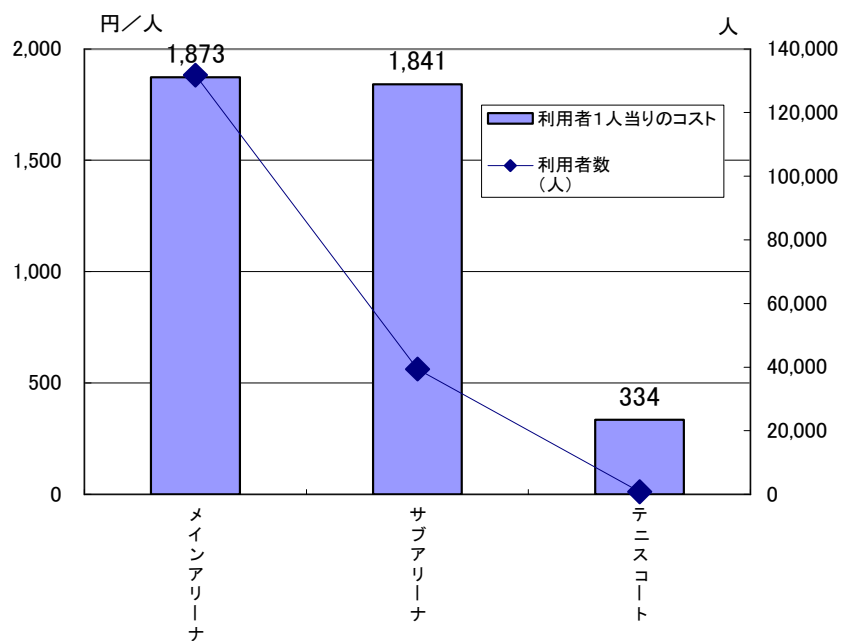
南長野運動公園総合運動場の利用者1人当たりの年間トータルコスト



ホワイトリングの利用者1人当たりのコストは、1,859 円／人となっています。メインアリーナ、サブアリーナともに 1,800 円台となっていますが、テニスコートは 334 円／人となっています。

ボブスレー・リージュパーク(スパイラル)の利用者1人当たりのコストは、70,985 円／人となっており、これらの施設の中では最も高くなっています。

ホワイトリングの利用者1人当たりの年間トータルコスト



ボブスレー・リージュパーク
(スパイラル)

(5) まとめ

大規模運動施設・その他体育施設の平成 24 年度の利用者数は約 107 万人で、利用者1人当たりのコストの平均は 1,685 円となっています。市民の健康意識が高く、スポーツ活動が盛んなことから、利用者も多く、コストが 1,000 円未満に抑えられている施設も多くなっていますが、スパイラルは、利用者が少ないことから、1人当たりのコストは 70,985 円となっており、これらの施設の中では最も高くなっています。

「長野市スポーツ推進計画」では、これらの大規模運動施設・その他施設について、計画的に改修・整備し、国際的・全国的スポーツ大会の開催や選手強化などの有効活用について、具体的な取り組みを掲げています。

しかしながら、オリンピック関連施設は、平成 10 年(1998 年)2 月の大会開催の1~2年前に集中して建設され、現在、築 16~17 年が経過しています。これらの施設の中には、建物の劣化や機械設備の性能の低下などが生じている施設もあり、その対応には、多額の経費が必要となっています。

これらの施設も、今から 13~14 年後には、一斉に築 30 年を迎えることとなり、更なる老朽化対策が課題となります。



長野オリンピックスタジアム

【運動場・マレットゴルフ場・市民プール・テニスコート】

(1) 概要

体育施設には、大規模運動施設や体育館のほかに、運動場、マレットゴルフ場、市民プール、テニスコートがあります。

これらの施設で本書の対象としている建物は、運動場3施設、マレットゴルフ場3施設、市民プール9施設、テニスコート4施設で、建物の延床面積は 14,161 m²となっています。

このうち 9,277 m²は総合レクリエーションセンター(サンマリーンながの)が占めています。この施設は、清掃センターの余熱を利用し、年間を通じて、幼児から高齢者まで幅広く楽しみながら、体力の向上を図ることのできる施設として設置されましたが、広域ごみ焼却施設の建設に伴い、平成 26 年 3 月 31 日をもって閉館となります。

ここでは、建物のない施設も含めて、利用状況や、現状と課題をまとめています。



総合レクリエーションセンター (サンマリーンながの)

第5章 施設分類別の状況

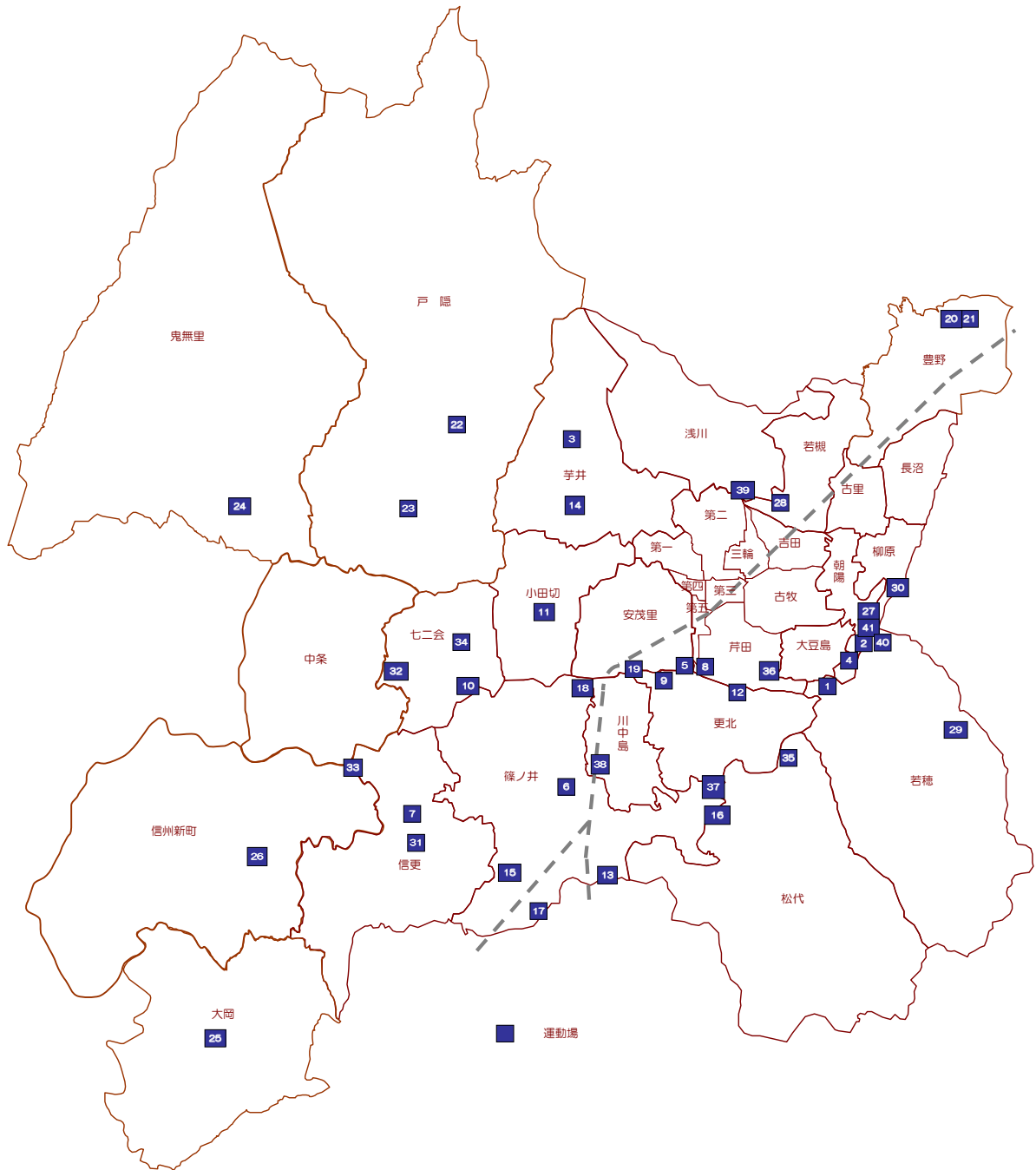
5. 体育施設

運動場一覧

	施設名称	所在地区	単複	運営	建築年	建物延床面積(m ²)	階層	主たる構造	利用者数(人)
1	落合運動場	若穂	単独	直営	1967年3月	—	—	—	24,166
2	屋島運動場	朝陽	単独	直営	1969年8月	—	—	—	21,947
3	飯綱運動場	芋井	単独	直営	1970年6月	—	—	—	—
4	万年島運動場	朝陽	単独	直営	1971年3月	—	—	—	4,020
5	犀川第1運動場	安茂里	単独	直営	1971年3月	—	—	—	67,165
6	茶臼山運動場	篠ノ井	複合	指定	1972年3月	—	—	—	11,151
7	信更運動場	信更	単独	直営	1973年3月	—	—	—	2,131
8	犀川第2運動場	更北	単独	直営	1973年7月	—	—	—	146,905
9	犀川南運動場	更北	単独	直営	1974年6月	—	—	—	35,882
10	七二会運動場	七二会	単独	直営	1979年3月	—	—	—	5,126
11	小田切運動場	小田切	単独	直営	1979年3月	—	—	—	4,585
12	更北運動場	更北	単独	直営	1979年3月	—	—	—	34,043
13	西横田運動場	篠ノ井	単独	直営	1984年5月	—	—	—	14,159
14	芋井運動場	芋井	単独	直営	1984年7月	—	—	—	1,740
15	篠ノ井運動場	篠ノ井	単独	直営	1985年3月	—	—	—	7,545
16	西寺尾運動場	松代	単独	直営	1988年3月	—	—	—	10,515
17	塩崎運動場	篠ノ井	単独	直営	1988年12月	—	—	—	1,975
18	小松原運動場	篠ノ井	単独	直営	1990年3月	—	—	—	—
19	安茂里運動場	安茂里	単独	直営	1991年3月	—	—	—	3,048
20	豊野東山第一運動場	豊野	単独	直営	1984年6月	—	—	—	2,155
21	豊野東山第二運動場	豊野	単独	直営	1978年10月	43	1	S造	4,206
22	戸隠運動場	戸隠	複合	直営	1987年10月	269	2	その他	4,603
23	柵運動場	戸隠	単独	直営	1975年4月	—	—	—	552
24	鬼無里運動場	鬼無里	複合	直営	1973年3月	—	—	—	12,635
25	大岡運動場	大岡	単独	直営	1986年6月	—	—	—	347
26	信州新町運動場	信州新町	複合	直営	1989年3月	—	—	—	7,900
27	北屋島運動広場	朝陽	単独	直営	1971年3月	—	—	—	—
28	若槻団地運動広場	若槻	単独	直営	1971年8月	—	—	—	—
29	山新田運動広場	若穂	単独	直営	1972年4月	—	—	—	—
30	柳原運動広場	柳原	単独	直営	—	—	—	—	—
31	信更運動広場	信更	単独	直営	1982年3月	—	—	—	—
32	春日山運動広場	七二会	単独	直営	1983年8月	—	—	—	—
33	安庭運動広場	信更	単独	直営	1984年6月	—	—	—	—
34	五十平運動広場	七二会	単独	直営	1985年10月	—	—	—	—
35	牧島運動広場	松代	単独	直営	1986年3月	—	—	—	—
36	川合新田運動広場	芹田	単独	直営	1986年9月	—	—	—	—
37	小島田運動広場	更北	単独	直営	1996年3月	—	—	—	—
38	今井運動広場	川中島	単独	直営	2000年8月	—	—	—	6,724
39	浅川運動広場	浅川	単独	直営	2001年3月	—	—	—	—
40	若穂多目的広場	若穂	単独	指定	2003年2月	—	—	—	1,028
41	千曲川リバーフロントスポーツガーデン	朝陽	単独	指定	1990年12月	710	2	S造	8,822
	合計					1,022			445,075

※ 利用者数が「—」は、自由利用により利用者数が把握できないものです。

運動場の配置状況



※ 図表の番号は、運動場一覧の番号と対応しています。

第5章 施設分類別の状況

5. 体育施設

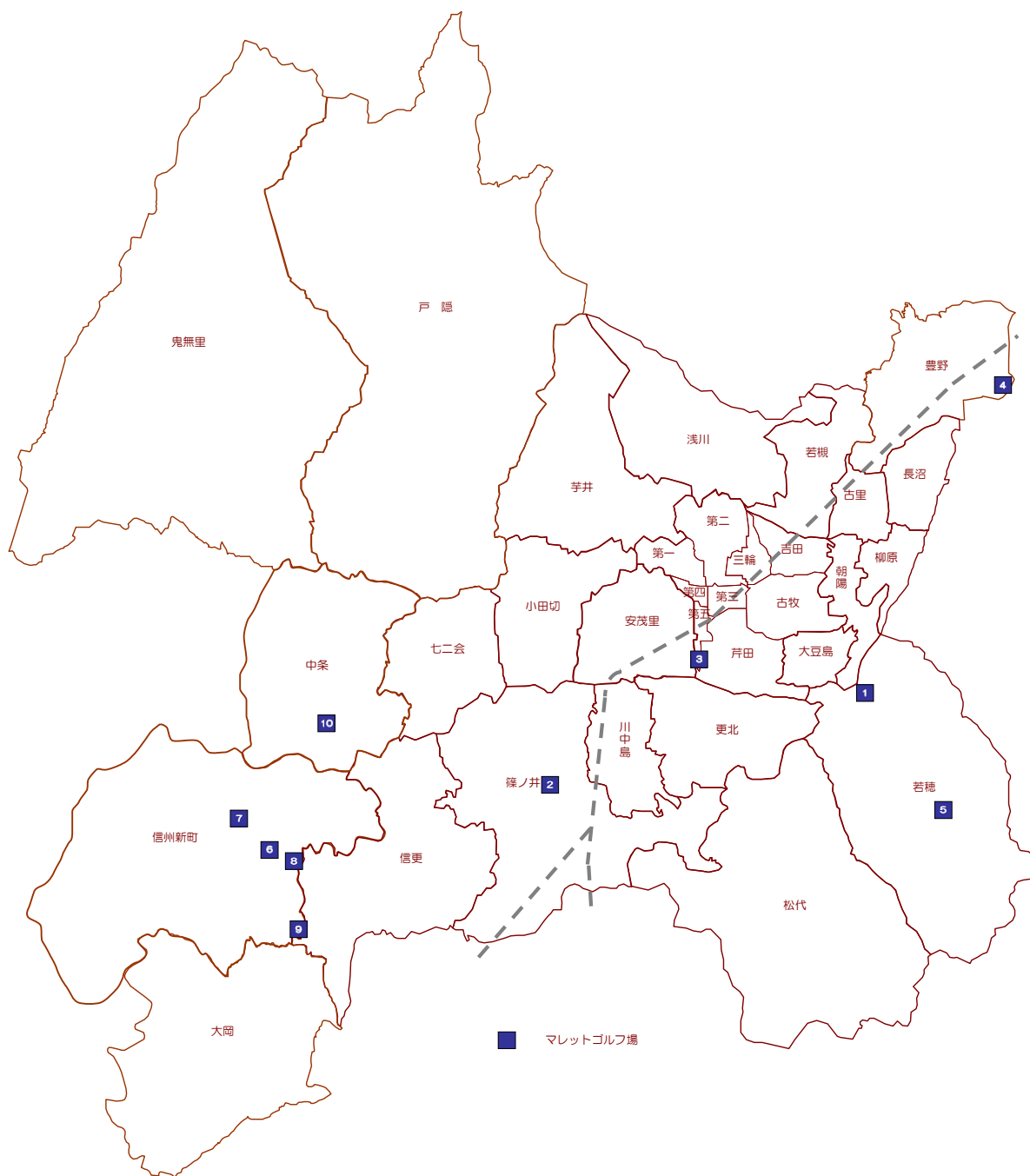
マレットゴルフ場一覧

	施設名称	所在地区	単複	運営	建築年	建物延床面積(m ²)	階層	主たる構造	利用状況(人)
1	若穂マレットゴルフ場	若穂	単独	直営	2000年5月	—	—	—	—
2	茶臼山マレットゴルフ場	篠ノ井	単独	指定	2001年7月	192	1	W造	10,051
3	裾花マレットゴルフ場	第五	単独	直営	2001年8月	—	—	—	—
4	豊野リバーサイドパークマレットゴルフ場	豊野	単独	直営	1995年11月	—	—	—	—
5	保科温泉マレットゴルフ場	若穂	単独	直営	2007年5月	—	—	—	—
6	琅鶴湖畔マレットゴルフ場	信州新町	単独	直営	1988年5月	—	—	—	—
7	ふれあい広場津和の里マレットゴルフ場	信州新町	単独	直営	2000年12月	—	—	—	—
8	信州新町竹房マレットゴルフ場	信州新町	単独	直営	2009年12月	39	1	W造	—
9	小花見高原マレットゴルフ場	信州新町	単独	直営	1992年4月	—	—	—	—
10	中条マレットゴルフ場	中条	単独	直営	2001年12月	31	1	W造	—
	合計					263			10,051



茶臼山マレットゴルフ場

マレットゴルフ場の配置状況



※ 図表の番号は、マレットゴルフ場一覧の番号と対応しています。

第5章 施設分類別の状況

5. 体育施設

市民プール一覧

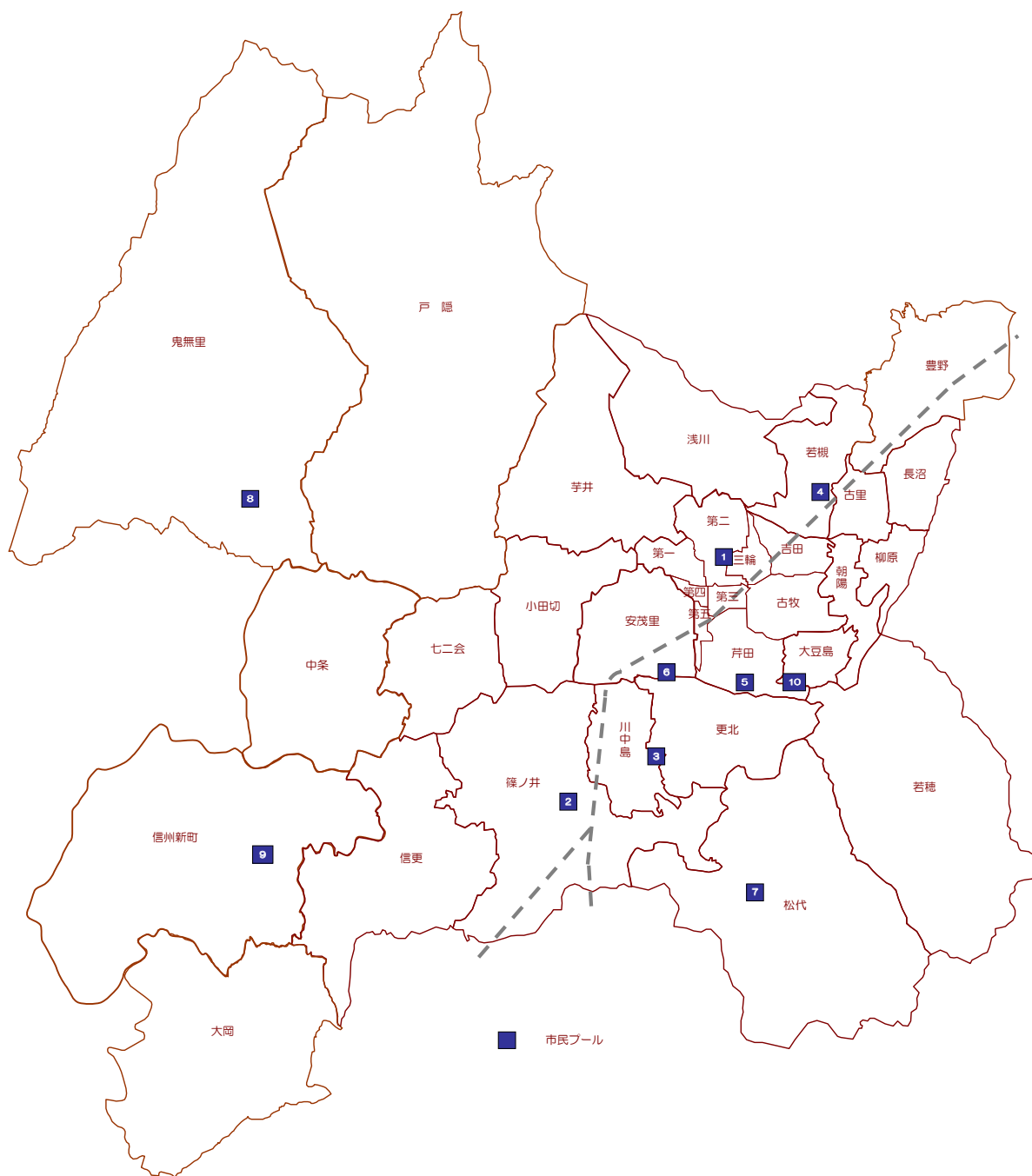
	施設名称	所在地区	単複	運営	建築年	建物延床面積(m ²)	階層	主たる構造	利用者数(人)
1	城山市民プール	第二	単独	指定	1971年5月	327	1	RC造	14,159
2	茶臼山市民プール	篠ノ井	複合	指定	1973年7月	272	1	S造	4,909
3	犀南市民プール	更北	単独	指定	1974年7月	195	1	S造	7,016
4	北部市民プール	若槻	単独	指定	1978年8月	261	1	S造	8,258
5	芹田市民プール	芹田	単独	指定	1986年6月	239	1	S造	7,627
6	安茂里市民プール	安茂里	単独	指定	1995年7月	280	1	W造	8,646
7	青垣公園市民プール	松代	複合	指定	1995年3月	450	1	S造	26,628
8	鬼無里B&G海洋センター市民プール	鬼無里	単独	指定	1991年5月	1,083	1	S造	1,070
9	信州新町プール	信州新町	複合	直営	1989年3月	—	—	—	955
10	総合レクリエーションセンター	大豆島	単独	指定	1985年10月	9,277	3	S造	169,509
	合計					12,384			248,777

※ 建物の面積は、管理棟の面積です。



青垣公園市民プール

市民プールの配置状況



※ 図表の番号は、市民プール一覧の番号と対応しています。

第5章 施設分類別の状況

5. 体育施設

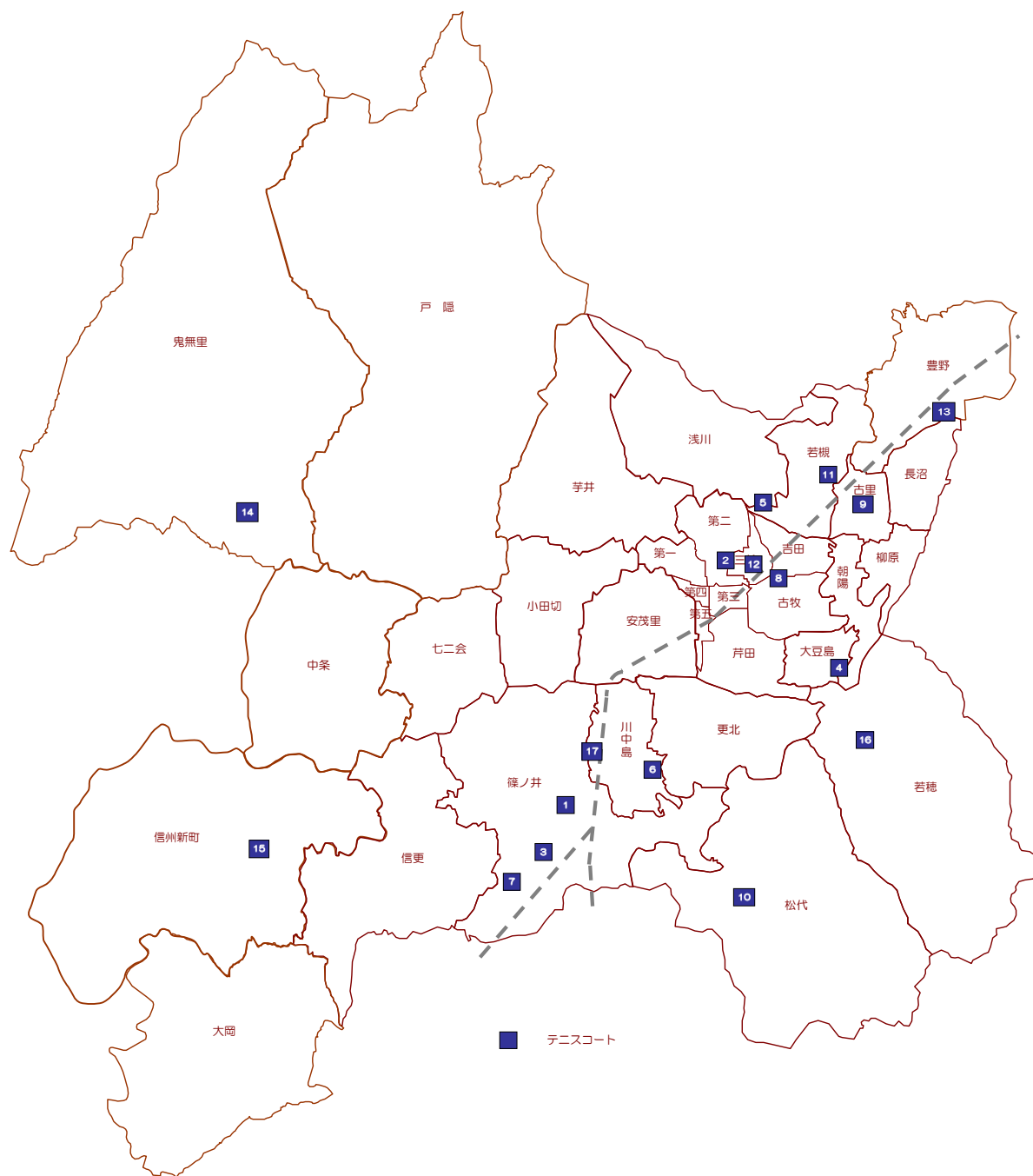
テニスコート一覧

施設名称	所在地区	単複	運営	建築年	建物延床面積(m ²)	階層	主たる構造	利用者数(人)
1 茶臼山テニスコート	篠ノ井	単独	指定	1977年7月	—	—	—	8,257
2 城山テニスコート	第二	単独	指定	1978年6月	44	1	W造	13,743
3 川柳テニスコート	篠ノ井	単独	直営	1981年9月	—	—	—	5,873
4 大豆島テニスコート	大豆島	単独	直営	1982年10月	161	1	S造	5,529
5 緑ヶ丘テニスコート	浅川	単独	直営	1984年5月	—	—	—	24,600
6 御厨テニスコート	川中島	単独	直営	1987年8月	—	—	—	6,334
7 篠ノ井テニスコート	篠ノ井	単独	直営	1988年12月	—	—	—	3,419
8 西和田テニスコート	古牧	単独	指定	1989年9月	160	2	S造	21,939
9 古里テニスコート	古里	単独	直営	1995年6月	—	—	—	5,538
10 青垣公園テニスコート	松代	単独	指定	1996年4月	—	—	—	446
11 昭和の森公園テニスコート	若槻	単独	直営	1997年3月	—	—	—	2,559
12 三輪テニスコート	三輪	単独	直営	1982年3月	—	—	—	—
13 豊野テニスコート	豊野	単独	直営	1984年4月	—	—	—	4,964
14 鬼無里テニスコート	鬼無里	単独	直営	1991年11月	—	—	—	168
15 信州新町テニスコート	信州新町	単独	直営	1989年3月	—	—	—	28
16 若穂中央公園テニスコート	若穂	単独	指定	2009年3月	127	1	W造	9,315
17 今井区西遊園地テニスコート	川中島	単独	直営	1995年8月	—	—	—	—
合計					492			112,712



緑ヶ丘テニスコート

テニスコートの配置状況



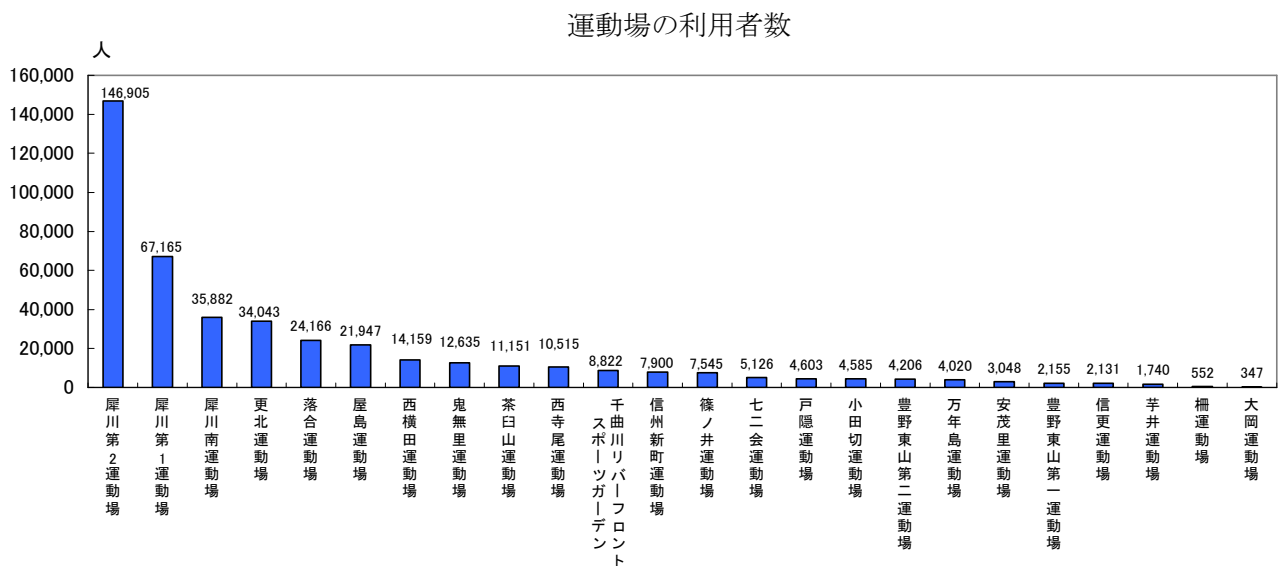
※ 図表の番号は、テニスコート一覧の番号と対応しています。

第5章 施設分類別の状況

5. 体育施設

(2) 施設の利用状況

運動場の平成 24 年度の利用者数は約 44.5 万人です。このうち、最も利用者数が多い施設は犀川第2運動場で約 14.7 万人です。犀川第2運動場の面積は約 24.2 万㎡で、野球場、フットボール場、マレットゴルフ場、馬場等の施設があります。運動場は屋外施設であるとともに、河川敷に設置された施設も多いことから、天候や河川の水位上昇などによって、利用者数は大きく変動します。



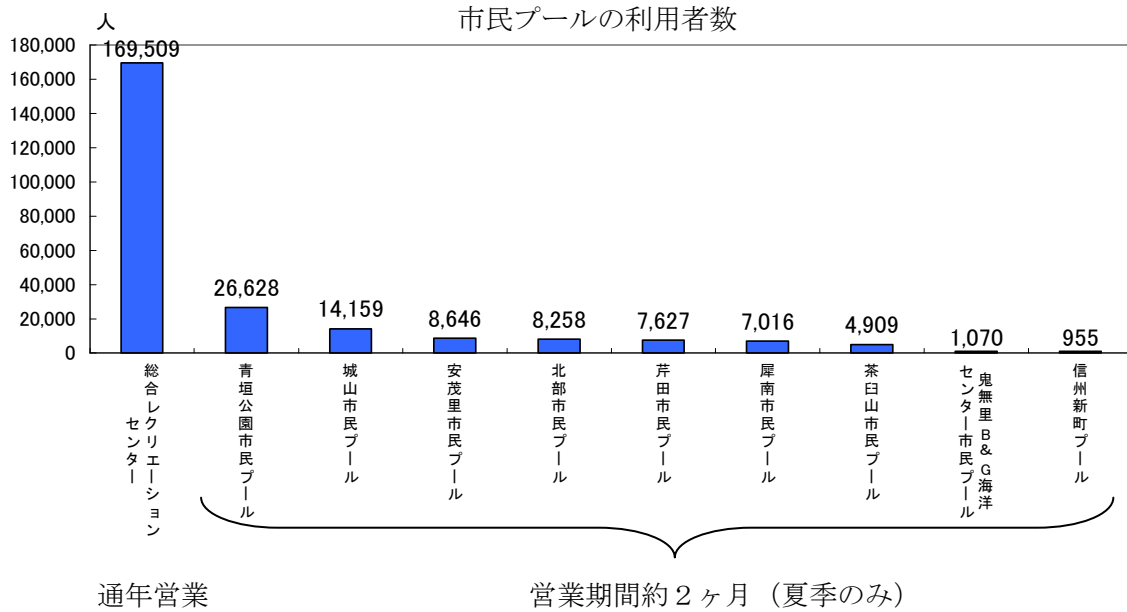
※ 自由使用施設は除いています。

※ 千曲川リバーフロントスポーツガーデンの利用者数は、3月から12月の営業期間中の人数です。それ以外の施設の利用者数は、4月から11月までの人数です。(12月から3月は自由利用)

市内のマレットゴルフ場で唯一有料施設である茶臼山マレットゴルフ場の平成 24 年度の利用者数は約1万人となっていますが、その他のマレットゴルフ場は自由使用の施設であるため、利用者数は把握できません。

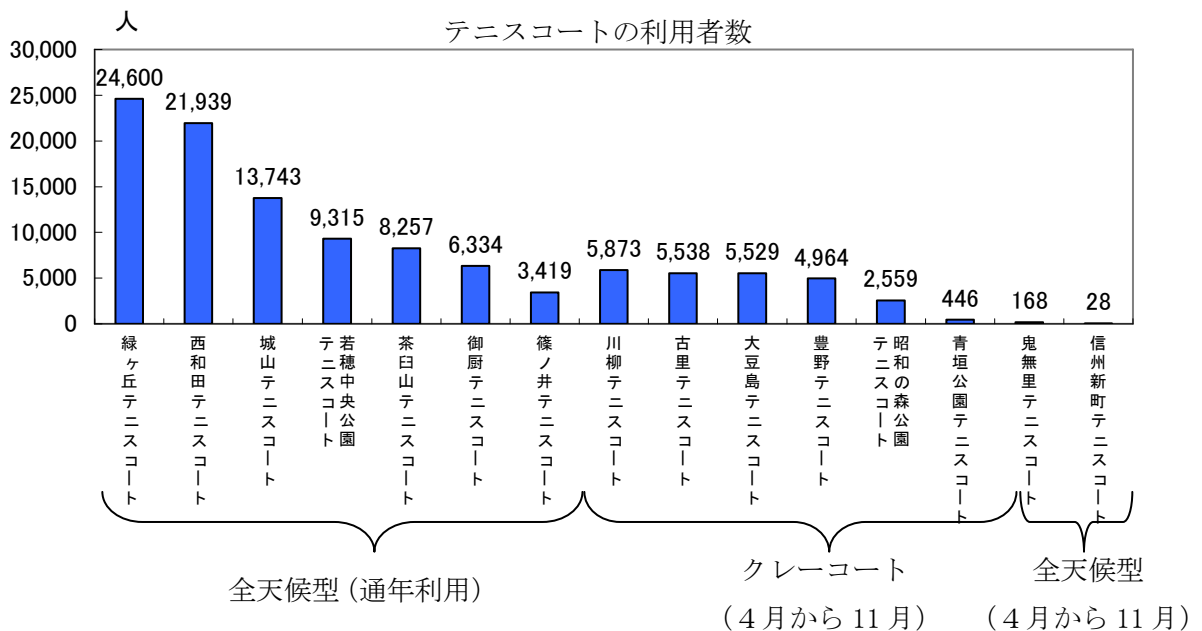
総合レクリエーションセンター(サンマリンながの)は、年間を通して利用できる市内唯一の屋内温水レジャープールで、平成24年度の利用者数は約17万人です。

その他の市民プールは、屋外施設で、利用期間は7月上旬から9月上旬となっています。この中では、スライダープール等、遊具を備えている青垣公園市民プールの利用が多く、約2ヶ月間で約2.7万人の利用があります。



テニスコートの平成24年度の利用者数は約11.3万人です。このうち、最も利用者数が多い施設は緑ヶ丘テニスコートで約2.5万人です。全天候型のコートで年間を通して利用できる施設は、天候に左右されにくく、利用者も多い状況です。

一方、クレーコートの施設は、天候に左右されやすく、12月から3月の冬季期間は休止となることから、全天候型の施設と比較すると、利用者数は少ない状況です。



※ 自由使用施設は除く。

第5章 施設分類別の状況

5. 体育施設

(3) コストの状況

① 概要

平成 24 年度の運動場・マレットゴルフ場・市民プール・テニスコートの光熱水費や建物管理委託料などの施設維持管理費は約 2.6 億円で、事業運営費は約 1.9 億円となっています。

また、建物の減価償却費を含めたトータルコストは約5億円となっています。

運動場ほかのコスト

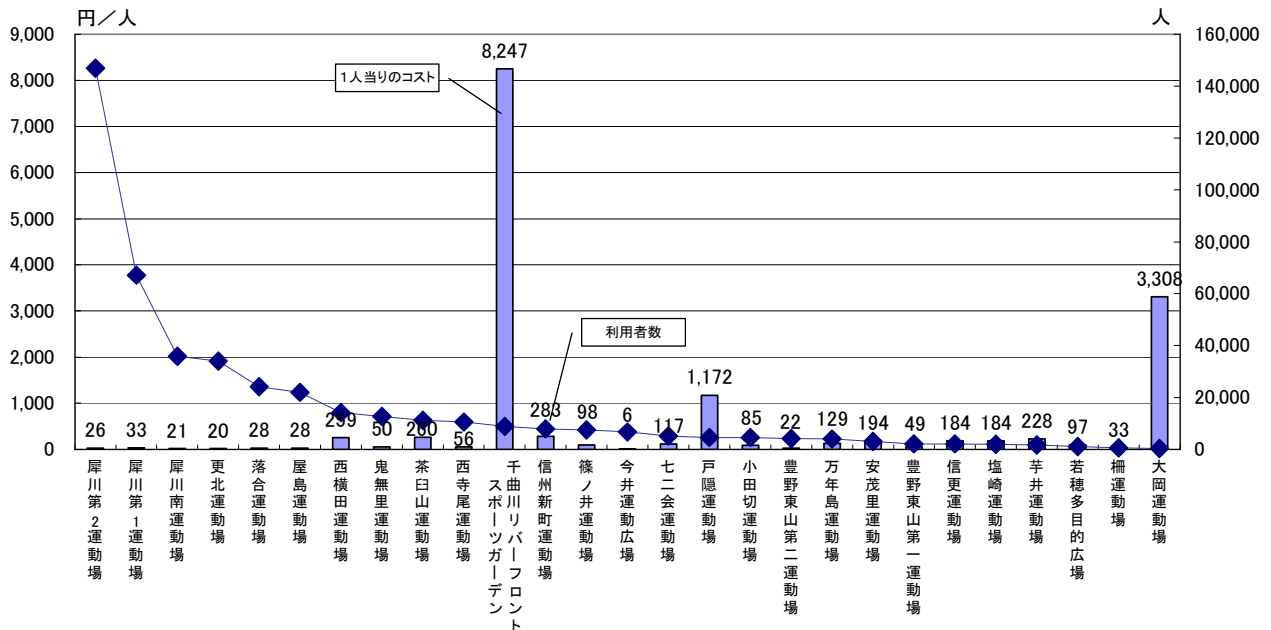
(金額単位：千円)

I 現金収支を伴うもの		施設分類名	運動場ほか
		施設数	78
【コストの部】		延床面積(m ²)	14,161
施設維持管理費	修繕費		10,584
	工事請負費		39,573
	光熱水費		47,802
	建物管理委託料		29,270
	人件費(概算)		87,892
	その他の経費		42,144
	施設維持管理費 計		257,264
事業運営費	人件費(概算)		108,678
	業務委託料		2,422
	その他物件費等		74,137
	事業運営費 計		185,238
現金収支を伴うコスト計 ①			442,501
【収益の部】			
利用料金等	市		7,507
	指定管理者		114,728
収益計 ②			122,235
II 現金収支を伴わないもの			
【コストの部】			
減価償却費 ③			56,050
トータルコスト(①+③) ④			498,551
収支差額(④-②)			376,316

② 利用者1人当たりのコスト

運動場の利用者1人当たりのコストの平均は 308 円/人です。コストが最も高い施設は、千曲川リバーフロントスポーツガーデンの 8,247 円/人、大岡運動場の 3,308 円/人となっています。

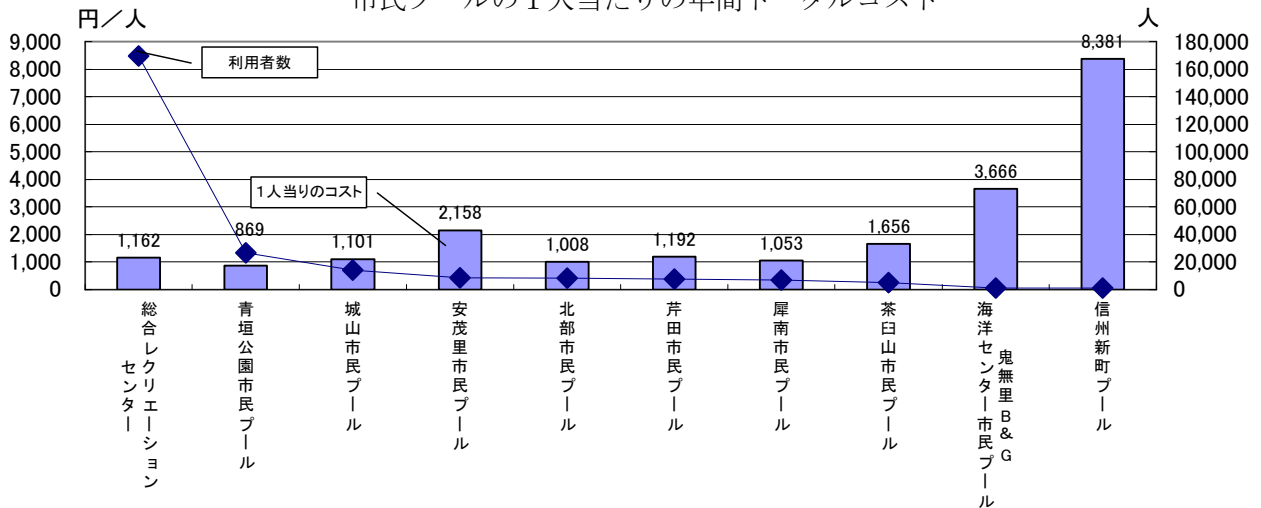
運動場の1人当たりの年間トータルコスト



茶臼山マレットゴルフ場の利用者1人当たりのコストは 1,485 円/人となっています。

市民プールの利用者1人当たりのコストの平均は 2,225 円/人です。コストが最も高い施設は、信州新町プールの 8,381 円/人、鬼無里 B&G 海洋センター市民プールの 3,666 円/人となっています。

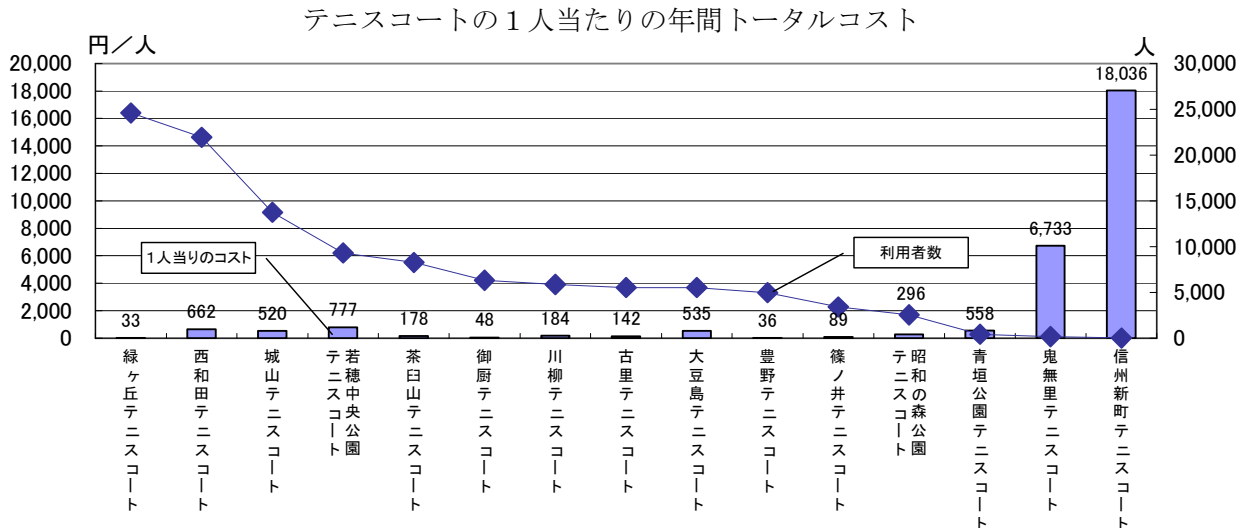
市民プールの1人当たりの年間トータルコスト



第5章 施設分類別の状況

5. 体育施設

テニスコートの利用者1人当りのコストの平均は 359 円/人です。コストが最も高い施設は、信州新町テニスコートの 18,036 円/人、鬼無里テニスコートの 6,733 円/人となっており、他の施設と比較すると突出しています。



(4) まとめ

運動場、マレットゴルフ場、市民プール、テニスコートは、サンマリーンながのを除き、すべて屋外施設であることから、天候の影響を受け易く、営業期間が限られている施設もあるため、各年度の利用者数は大きく変動します。

運動場やマレットゴルフ場、テニスコートの多くは、利用者も多く、維持管理にかかるコストが低いため、利用者1人当たりのコストも抑えられています。中山間地域の施設では、利用者が極端に少なく、1人当たりのコストが大きくなっている施設も見られます。

これらの施設の中には、利用状況の低い施設もありますが、運動場や市民プールの中には災害時の避難場所や消防水利などとしての役割もあるため、地域での位置付けを勘案しながら、施設のあり方について検討していく必要があります。